

ひまわり

2009 秋
第61号

ニッセイ・ニュークリエーション



特集 これがNNC社員のバリアフリーな住まい!! (1P)

職場探訪シリーズ 三洋商事株式会社 (5P)

NNCの新たな取組み (11P)

輝く明日に! 人・クローズアップ ~杉本 真一さん~ (15P)

Metals Recycle System

三洋商事株式会社

「地球にありがとうを伝える企業」を目指して!!



今回の職場探訪は「三洋商事株式会社（以下、三洋商事）」へお伺いしてきました。こちらの会社はパソコンや携帯電話など不要になった機器を収集し、アルミや銅といったリサイクルできる単位にまで解体し、分別を行っています。また、障がいを持った方も積極的に雇用されておられるそうです。今まで物を作っている会社への取材はありますが、反対に物を解体する会社を取材するのは初めてで少し緊張します。それではお邪魔します。

三洋商事のお仕事

三洋商事は大阪府の東側に位置する物づくり、技術の町で有名な東大阪市にあります。実は三洋商事へ訪問するまで、解体業だという業務内容を聞いて、機械の油があちこちにしみ込み、床には機械を解体した時にできる破片や部品が散らばっていて、私たち車いすでお邪魔できる場所ではないのでは？と不安に思っていたのですが（すいません）、事務所のある建物や、奥に少し見えた解体現場を見てビックリ！とてもきれいで整理整頓が徹底されており、はじめの不安は一気に吹き飛びました。

今回お忙しい中、取材にご対応していただいたのは桐畑取締役、総合管理グループの中村さん、CSR推進グループの長谷川さんでした。桐畑取締役はこの日のために東京から駆けつけてくださいました。本当にありがとうございました。

はじめに事業内容などについてご説明いただきました。「三洋商事」は昭和32年3月に公衆電話や電車などの解体業として設立された会社です。今回お邪魔したのは本社ですが、その他にも東大阪市に数支店、東京や奈良に支店があるそうです。

「地球にありがとうを伝える企業」を経営理念とし、どのようにすれば不要となった物を資源として効率よく再利用できるか、ということ常々考えてこられたそうです。その



右から、桐畑取締役、中村さん、長谷川さん

全社人数：262名
(障がいのある社員：40名)
〈内訳〉 知的 31名
身体 4名
精神 3名
聴覚 2名
平成21年7月現在

環境マネジメントシステム
(EMS)規格ISO14001
認証取得工場
EC02J0331(2003/3/12)



地球に
ありがとう



ため徹底した人手による解体を行い、機械を使用した方法ではできないレベルにまで細かく解体、分別することを目標にした結果、今では高いリサイクル率を実現できるようになったそうです。

現在の主な解体製品は、“不要となったパソコン”、“携帯電話”、“銅線”などだそうです。普段私たちが使っている携帯電話は、故障や機種変更などにより使用しなくなった場合、三洋商事のようなリサイクル会社で解体され、専門業者へ引き取られて、資源となって新しい製品として生まれ変わっているのです。携帯電話はプラスチック、鉄、銅、アルミなど様々な材料で作られています。これら



材料毎に仕分けられた「資源」(ケーブル皮膜除去現場)をその材料毎に細かく分けることによって、はじめて資源としてリサイクルすることが可能となります。

また皆さんが持っている携帯電話には友達

の電話番号、メールアドレスなど色々な情報が入っているはずですが、パソコンにも個人で使用しているもの、会社で使用しているものに関わらず、様々な情報が大量に入っています。これらの情報は個人情報、機密情報と呼ばれ、情報の「適切な取扱い」が法で定められており、外部への漏洩などが発生すると大変な問題となりかねません。(皆さんもよくご存知ですよ)

三洋商事でも同様に、このような情報が入った携帯電話やパソコンなどの取扱いは、厳重な管理の基に行われており、単に物理的にバラバラにする解体だけでなく、機械の中に入っているデータの解体(消去)は必須であり、その他顧客のニーズに合わせた様々な方法で処理を行っておられるそうです。

障がい者雇用について

冒頭でも紹介しましたが、三洋商事は障がい者雇用にも積極的な会社です。2004年に3名の方を雇用したのを始まりに、現在では在宅勤務をされている方を含め、40名の障がいを持った方が勤務しておられるそうです。大部分がパートスタッフとしての雇用ですが、その内7名の方が正社員として仕事をされています。現在三洋商事の全社員数は262名で、障がいを持った方の割合はなんと約15%にもなります。

障がいを持っている方の仕事内容は、パソコン・携帯電話の解体、ケーブル(送電線など)の被膜(絶縁するために電線の外側に巻かれたビニール、ゴムなど)除去、トラックの洗車、パソコンを使った作業進捗の管理など様々だそうです。ちなみに三洋商事では障がいを持つ人のことを「チャレンジド」と呼び「the challenged(挑戦するチャンスや資格を与えられた人)」という米語を語源とし、「障がいを持つゆえに体験する様々な事象を、自分自身のため、あるいは社会のためポジティブに生かしていこう。」という想いが込められているそうです。

解体現場見学

トラックで運び込まれてきた廃棄物は、ま

ず受付で重量を量ります。どうやって量るのか?とお聞きすると、私たちが三洋商事に到着し、うろうろしていた地面に巨大体重計が埋め込まれており、廃棄物(積荷)を積んだトラックごと重量を量っていたのです。その後、廃棄物(積荷)を全部下ろした後にトラックだけの重量を量ると、重さの差が持ち込まれた廃棄物の重さになるというシステムでした。「なるほどー。でも私の体重バレたかも」と私たちが考えている間にも次々に大型トラックがやってきて、かなり邪魔してしまいました。(すいませんでした・・・)

初めにパソコン解体作業場に案内いただきました。作業場ではヘルメットの着用が義務づけられており、私たちもここからはヘルメットをして見学をさせていただきました。万一の事故の際、迅速な対応ができるようにと、作業されている方のヘルメットには、名前と血液型が書かれていました。この作業場は、主に知的に障がいを持った方が担当されているそうです。中身を抜かれたパソコン躯体、HD、基盤、ディスプレイなどが綺麗に



パソコン解体作業中

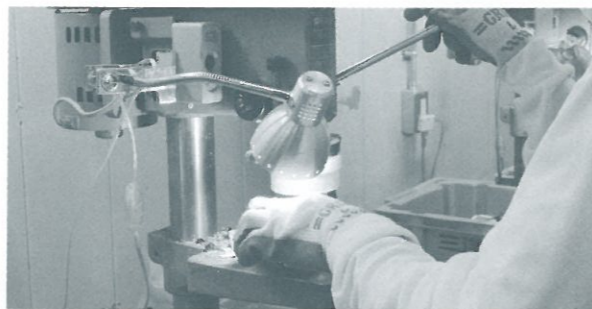


部品毎に分別されたパソコン まるでこれから組み立てられるみたい

箱に並べられてあり、これから組み立てを待つ部品のような感じでした。また解体作業も専用工具を使用し手際よく行われているため、ずーっと眺めているとまるで組み立て作業を

逆再生しているようでした。

次に、携帯電話の解体作業場に案内していただきました。携帯電話を解体する場所はセキュリティールームと呼ばれており、入口には部外者の侵入防止、入退室管理のための「静脈認証装置(人によって異なる手のひら



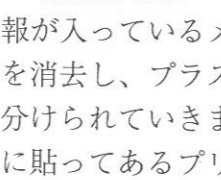
携帯電話解体作業風景



見よ!この大量の携帯電話

の静脈を認識し事前に登録した人でないと扉が開かない)によるオートロック、室内への私物持込み、室外への解体部品持出し防止のための「金属探知機(空港にあるゲート式ですが、車いすの私は思いっきり警報ブザーが鳴ってしまいました・・・)」、さらに入館者の名前を書く必要があるなど、万全なセキュリティ体制でした。

初めに納入された携帯電話は施錠できる専用の台車に乗せられ、このセキュリティールームに運ばれます。その後、1台ずつ製造番号などの固体データを入力し、依頼主との照合が行われます。そして情報が入っているメモリ基盤に穴を開けて情報を消去し、プラスチックや基盤などの部品に分けられていきます。また、携帯電話の外側に貼ってあるプリクラなどのシールも全てきれいに剥がされていました。携帯電話にはメーカーや年度により形や仕組みが異なるた



静脈認証装置

め、解体する方法が異なるので、そのノウハウも必要だそうです。

こちらの作業場には聴覚に障がいを持つ方が働いておられ、手話でコミュニケーションを取られていました。

次に、ケーブルの被膜を分けている作業を見せていただきました。こちらも主に知的に障がいのある方が、作業を担当されていました。ケーブルは細いものから直径20センチを超える太いものまで様々でした。力が要りそうな作業でしたが、皆さん次々と被膜を剥いておられていました。被膜が取られたケーブルの中には銅線が入っていました。その銅線がピカピカで、リサイクルどころかこのまま新品でも通用するのでは?と行ってしまいました。

三洋商事ではどこの場所へ行っても「いらっしゃいませ」「こんにちは」と元気な挨拶をいただき、とても気持ちの良い活発な職場だと感じました。(やはり元気の良い挨拶は気持ちのいいものですね。)



ケーブル皮膜除去作業風景

現場で仕事をされている方に話を聞くと「やりがいがあり、仕事をするのに良い環境で働き易い」「しっかりやれば認めてもらえるので、いつまでも頑張って長く働きたい」と言われ、皆さんイキイキと仕事をされておられました。

これからの三洋商事

三洋商事では、これからも積極的に障がいを持った方の雇用を進め2012年には障がい者雇用率を20%にまで引き上げ、現在パート雇用している社員の正社員雇用を推進しておられます。そのためにも指導者の育成に重点を置き、より精度の高い仕事を目指していきたいとのことです。また障がいをもつ社員の仕事確保を目的に現在行っているトラック

などの洗車事業拡大を図っていきたいそうです。

またリサイクルだけでなく、太陽光発電システムを導入し社内で使用する電力を100%自給することを目標としたり、自社トラックなどを低公害車やハイブリッド車へ替えCO₂削減を目指したりと、環境問題にも積極的に取り組んでおられます。(取材時にも1台とてもかわいい電気自動車がありました。)その他に、環境問題をテーマにしたオリジナル絵本を毎年発行し地域の保育園や幼稚園などに



近くの営業にはこの電気自動車を使用。車の後ろには「地球にありがとう」のメッセージが!



保育園や幼稚園に配布しているオリジナル絵本

無料配布し、環境教育の啓発活動を行ったり、地域の方々と交えたイベントを開催するなど、社会貢献活動も活発に行っておられました。これらの多方面にわたる取組みには眼を見張る思いであり、今後のますますのご活躍をお祈りしたい気持ちになりました。

取材を通して「地球にありがとうを伝える企業」という経営理念を様々な方法で実践されていることがとても印象に残りました。

大量に運び込まれる廃棄物がゴミとして処分されるのではなく、資源として再利用されるという現場を見て、資源の大切さを改めて見直すことができた取材でした。

私も普段使っている物を「ありがとう」の気持ちを持って、もっと大切にしようと思いました。

最後になりましたが、桐畑取締役をはじめ、取材にご協力いただいた皆さま、お忙しい中お時間を作っていただき、本当にありがとうございました。